

あいちビジョン 2020

(素案の概要)

～日本一の元気を暮らしの豊かさに～

平成 25 年 12 月 25 日

愛知県知事 大村 秀章

策定趣旨・目的

リニア中央新幹線（東京都・名古屋市間）の開業後の 2030 年頃を展望し、2020 年までに
取り組むべき重点的な戦略を明らかにするとともに、県内各地域の取組方向を示す。

<参考>愛知県の長期計画の策定経緯

1958（昭和 33）年 12 月	愛知県地方計画（第 1 次）
1962（昭和 37）年 8 月	愛知県新地方計画（第 2 次）
1970（昭和 45）年 1 月	第 3 次愛知県地方計画
1976（昭和 51）年 3 月	愛知県地方計画 1976～1985（第 4 次）
1982（昭和 57）年 3 月	第 5 次愛知県地方計画
1989（平成元）年 3 月	愛知県 21 世紀計画（第 6 次愛知県地方計画）
1998（平成 10）年 3 月	新世紀へ飛躍～愛知 2010 計画（第 7 次）



2006（平成 18）年 3 月	新しい政策の指針
2010（平成 22）年 3 月	政策指針 2010-2015



2014（平成 26）年 3 月	あいちビジョン 2020
------------------	--------------

I 2030 年の社会経済の展望

超高齢社会・人口減少の進行

- ・ 本県人口は、2015 年をピークに減少
- ・ 2030 年の人口構成は、2010 年に比べて、生産年齢人口が 10%減、老年人口が 33%増
- ・ 単身世帯が大きく増加

グローバル化の進展

- ・ アジアが世界経済の主役になる一方、日本をはじめ先進国の成長力は低下
- ・ 世界経済の相互依存関係やフラット化が進む

2030 年の社会経済

災害リスク、環境・エネルギーリスク

- ・ 南海トラフの巨大地震がいつ起きてもおかしくない状況
- ・ 新興国の経済発展に伴う世界的な資源・エネルギー需要の拡大や温暖化の加速

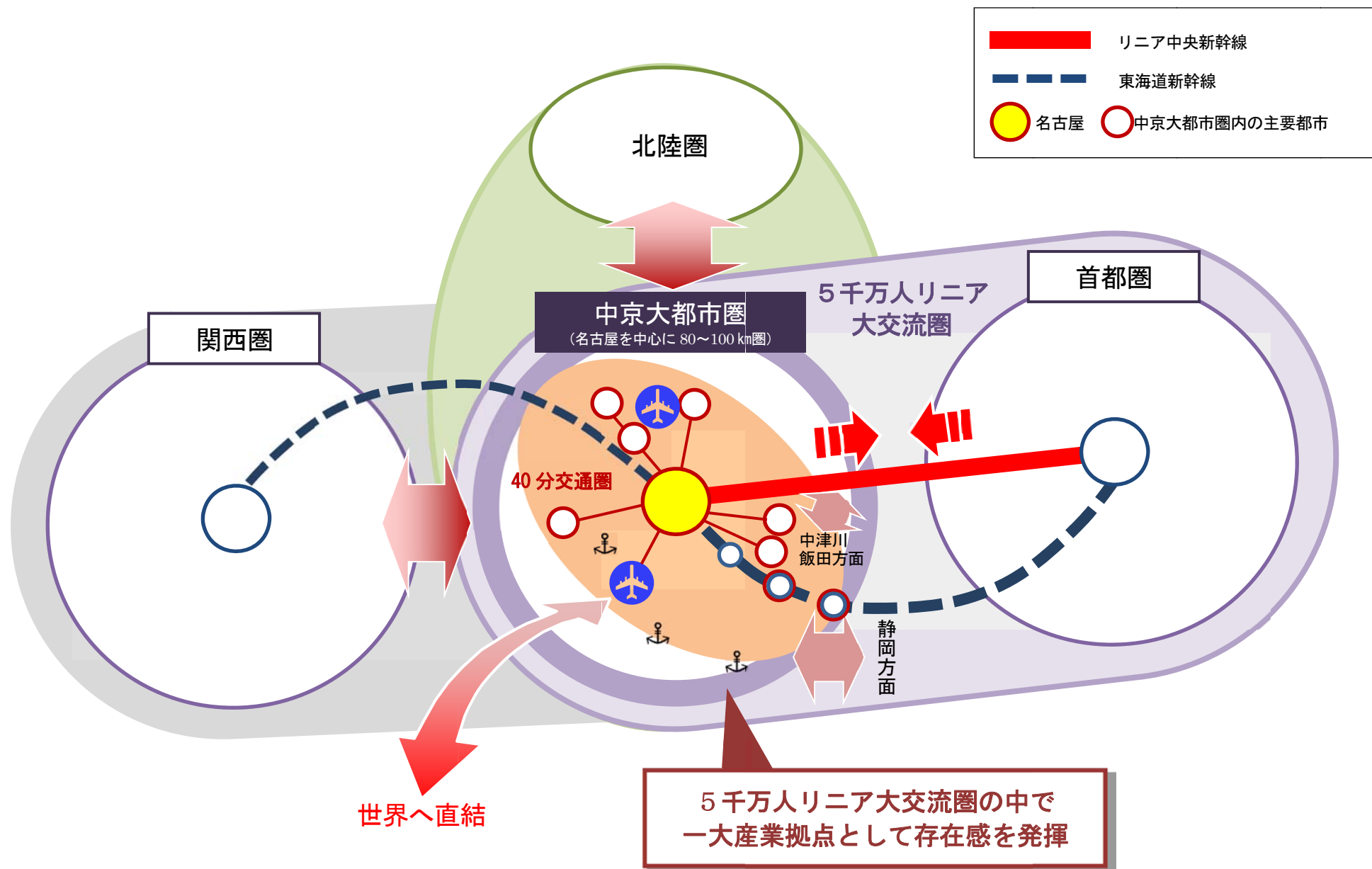
リニア中央新幹線の開業インパクト

- ・ 首都圏との交流が大幅に拡大
- ・ 三大都市圏の役割など、国土構造に大きな変化をもたらす

リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏

- ◆2027 年度のリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業により、首都圏から中京圏に及ぶ範囲で、人口 5 千万人規模の巨大な大交流圏が誕生する。大阪まで開通する 2045 年までは、この地域がリニア大交流圏の西の拠点となる。
- ◆リニアのインパクトを最大限に生かし、名古屋を中心に社会的・経済的な結びつきが強い広域エリア（名古屋を中心とした 80～100km 圏）を「中京大都市圏」とし、首都圏の吸引力に対して独自の機能を備えながら、北陸圏、関西圏に後背圏を広げていく。
- ◆中京大都市圏は、リニア大交流圏の中で、世界と直結する一大産業拠点としての役割を担っていくとともに、この地域の多様な魅力を発信しながら、国内外から人・モノ・カネ・情報を惹きつけていく。

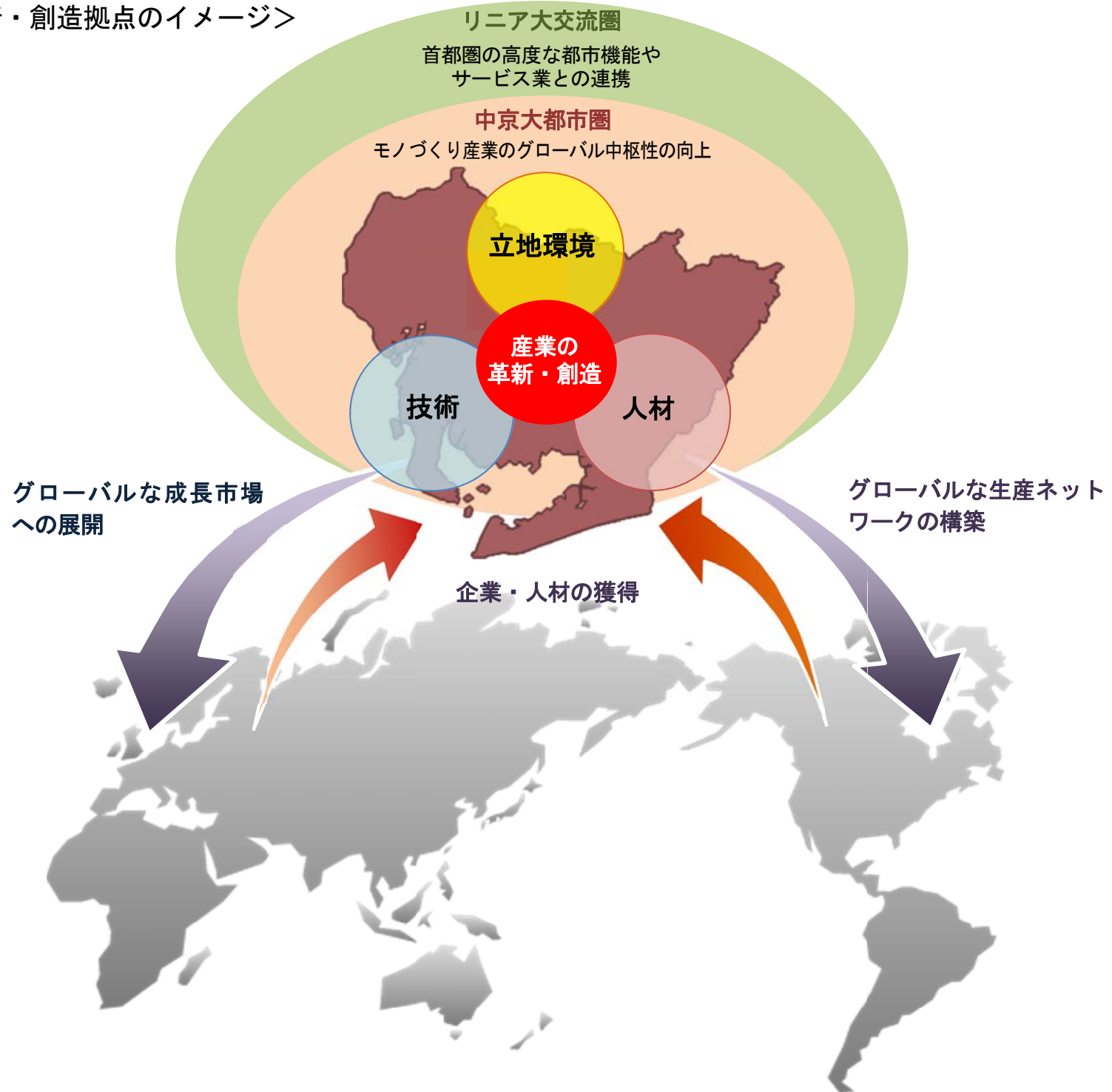
<中京大都市圏のイメージ>



日本の成長をリードする産業の革新・創造拠点

- ◆ 広域交通ネットワークの整備やリニアの開業などにより、中京大都市圏の立地環境の優位性が高まる中、国内外から企業が集まり、県内で育った人材、国内外から集まった人材が切磋琢磨しながら、革新的な技術を次々と生み出していく。
- ◆ 拡大する世界経済の中で、この地域の企業は積極的に成長市場に展開し、またグローバルな生産ネットワークを構築するなど、この地域におけるモノづくりのグローバルな中枢性が高まっていく。
- ◆ さらに、リニアの開業により生まれる大交流圏の中で、首都圏が持つ高度なサービス産業等とも連携し、相乗効果が図られながら、ビジネスモデルの高度化や成長産業への展開が進んでいく。
- ◆ こうした活発な展開のもと、産業の革新・創造拠点として、わが国の成長を力強くリードしていく。

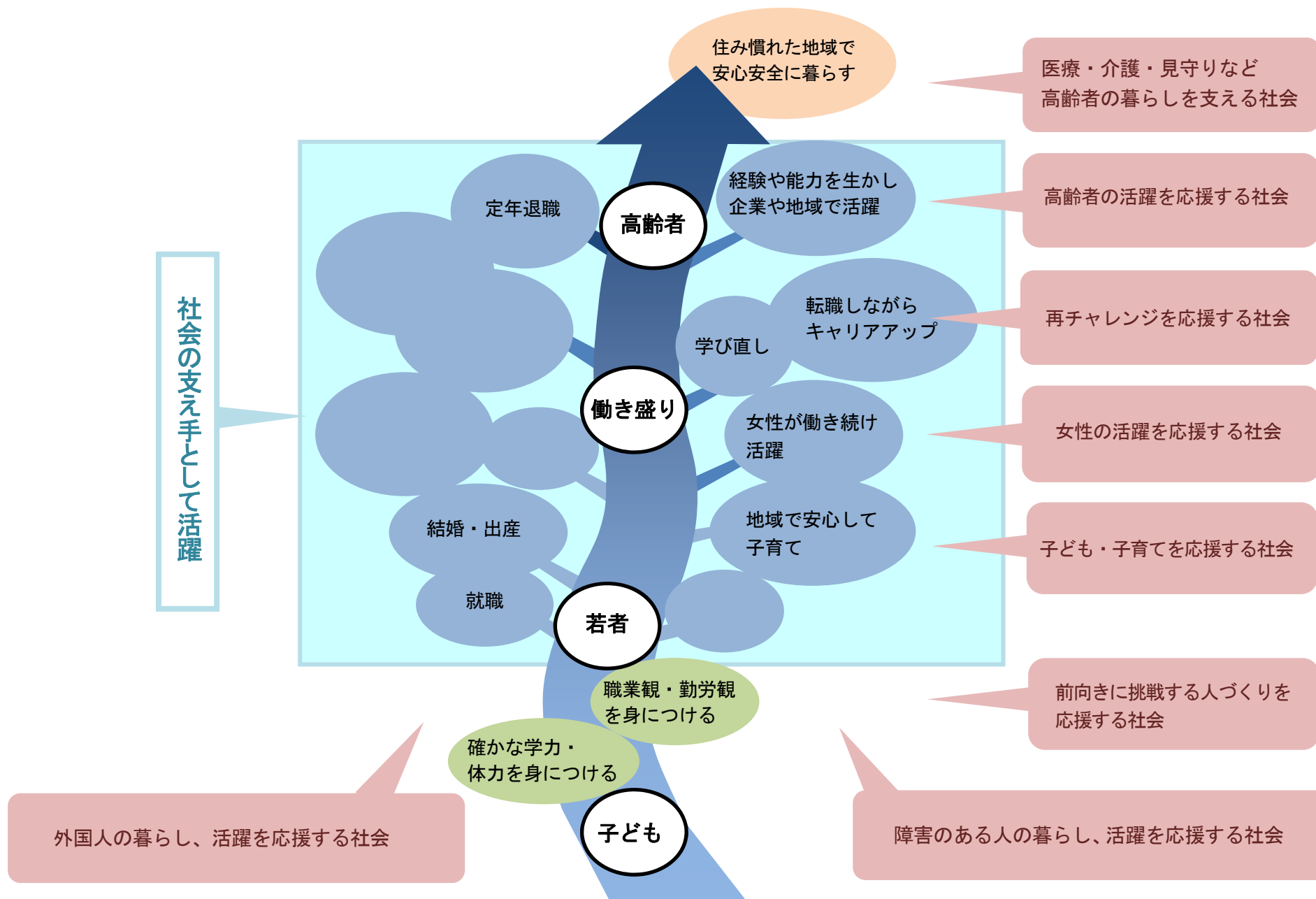
＜産業の革新・創造拠点のイメージ＞



安心安全で、誰もが夢と希望を抱き、活躍する社会

- ◆人口減少社会を見据え、男女を問わず、若者から高齢者まで、障害の有無や国籍に関わらず、多様性を認め合いながら、誰もがそれぞれのライフステージにおいて活躍し、全員参加で支える社会をめざしていく。
- ◆前向きにチャレンジする人が育ち、仮に失敗しても再チャレンジしながらキャリアを形成していくことができる社会、希望する人が家庭や子どもを持ち、地域全体で子育てを支える社会、女性が元気に働き続けられる社会、高齢期にも企業や社会で能力を発揮できる社会、さらには、人生 90 年時代を健康で安心して地域で暮らすことができる社会を実現していく。
- ◆あわせて、災害や犯罪などから県民の命や財産を守ることができる安全な社会、環境と地域経済の発展が両立できる持続可能な地域社会を築いていく。

＜生涯の活躍を応援する社会のイメージ＞

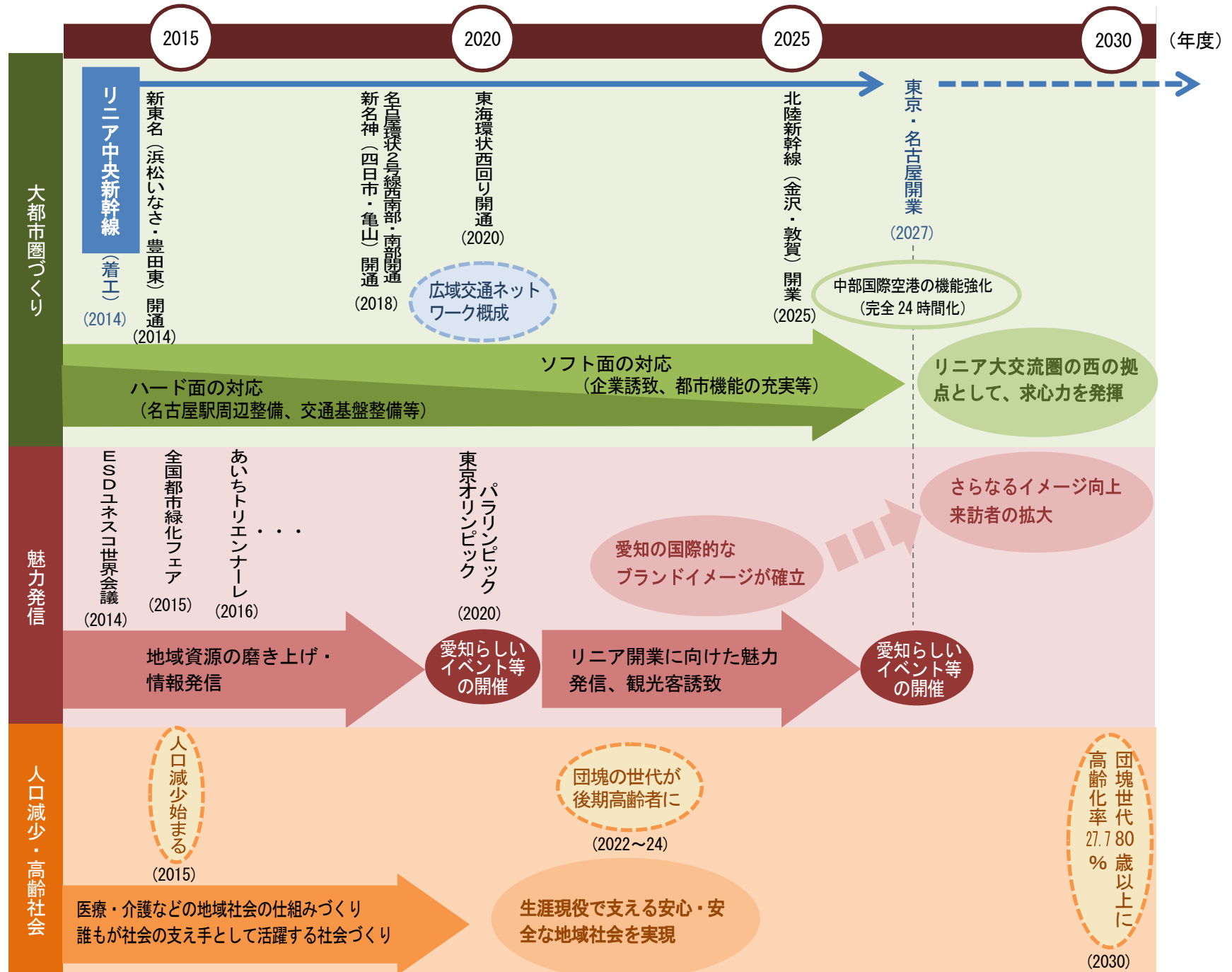


Ⅲ 2030 年に向けた地域づくりの戦略と基本目標

＜中長期的な展望を持った地域づくり＞

- ◆新東名・新名神高速道路に加え、名古屋環状 2 号線、東海環状自動車道が完成するなど、2020 年頃に中京大都市圏内の広域交通ネットワークが概成する。2020 年には、東京オリンピックが開催され、2027 年度には、わが国の大都市圏の役割や位置づけに大きな変化をもたらすリニア中央新幹線が開業する。
- ◆この 2020 年、2027 年を念頭に置きながら、交通基盤の整備や空港・港湾などの世界との直結性の強化、企業誘致、さらには、こうした節目の年をターゲットとしたイベントの開催やそれを見据えた魅力づくりなど、戦略的に中京大都市圏づくりを進めていく。
- ◆2015 年頃には人口減少社会に移行し、さらに 2022～24 年には団塊の世代が後期高齢者となって医療や介護などの支援が必要な高齢者が一気に増加していくと見込まれる。こうした人口構造の変化を念頭に置きながら、安心・安全に暮らせる地域社会の仕組みを構築していくとともに、誰もが社会の支え手として活躍していくための人づくり、社会づくりに取り組んでいく。

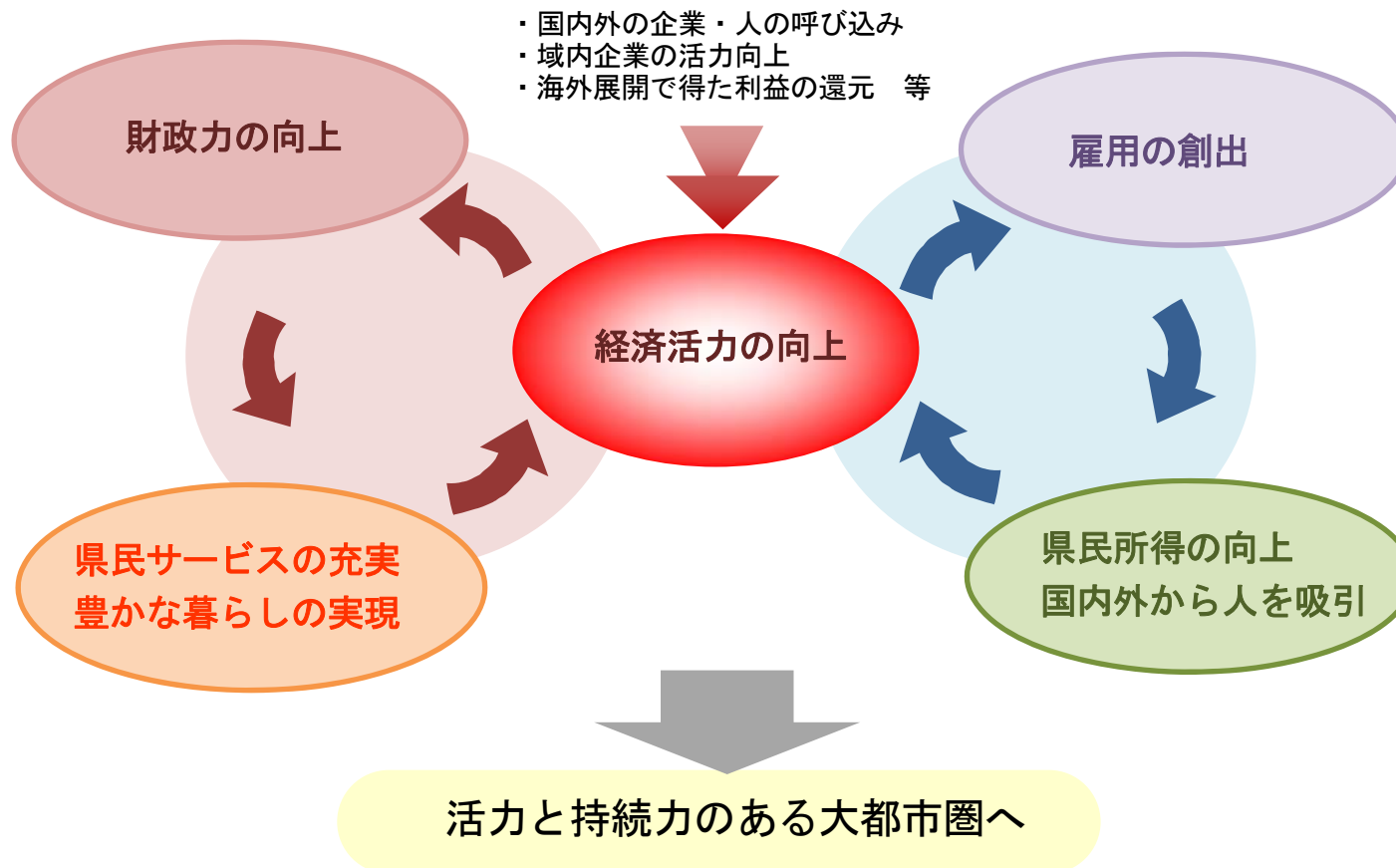
2030 年に向けた地域づくりのイメージ



＜経済活力と豊かな暮らしの好循環＞

- ◆2030 年に向け、高齢化に伴う医療・福祉等の行政ニーズが拡大していくことが見込まれる中、第一に取り組むべきは、国内外から企業や人を呼び込み、域内企業の活力向上はもとより、企業が海外展開で得た利益の還元などを図りながら、経済活動の活発な地域にしていくことである。それによって、財政を豊かにし、不断の行財政改革に取り組みながら、医療、福祉、教育などの県民サービスを向上させ、県民の豊かな暮らしの実現につなげていく。
- ◆こうした活発な経済活動により、新たな雇用が生み出され、県民の所得が向上するとともに、国内外から人を呼び込み、それによって、新たな市場や産業が生まれていく。
- ◆このような経済活力と県民の豊かな暮らしの好循環のもとで、活力と持続力のある大都市圏として発展していく。

経済活力と豊かな暮らしの好循環のイメージ



あいちビジョン 2020 の基本目標

＜考え方＞

- ◆2030 年に向けて、「リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏」、「日本の成長をリードする産業の革新・創造拠点」、「安心安全で、誰もが夢と希望を抱き、活躍する社会」の3つの愛知の姿を実現していく。
- ◆そのための戦略として、東京オリンピックが開催される 2020 年、リニア中央新幹線が開業する 2027 年をターゲットに置きながら、ハード・ソフト両面から、新しい時代に飛躍できる大都市圏づくりを進めていく。
- ◆日本一元気な経済活動の活発な地域をつくり、それによって、財政を豊かにし、県民サービスの向上により、豊かな県民の暮らしを実現していく。さらに、そうした活発な経済活動が生み出す雇用により、県民所得の向上とともに国内外から人を呼び込む好循環を実現し、活力と持続力を持つ大都市圏へと発展させていく。

基本目標

日本一の元気を暮らしの豊かさに

IV 重要政策課題と主な政策

1

中京大都市圏 ～5千万人リニア大交流圏の西の拠点となる大都市圏に向けて

◆名古屋駅のスーパーターミナル化と 40 分交通圏の形成

- ・名古屋駅から中京大都市圏の 40 分交通圏の拡大をはじめ、総合的な交通ネットワーク形成
- ・名古屋駅の利便性向上に向けた交通事業者や名古屋市の取組の促進

◆広域道路ネットワークと都市基盤の整備

- ・新東名高速道路や三遠南信自動車道など国土の東西・南北軸となる道路の建設促進
- ・名古屋環状 2 号線、名豊道路、西知多道路の建設促進など国際物流・交流拠点へのアクセスの多重化
- ・名古屋都心の高次都市機能の集積、名古屋港周辺の大規模集客施設の整備
- ・県内主要駅周辺での区画整理事業や鉄道高架化

◆世界と直結するゲートウェイ機能の強化

- ・リニアの開業を見据えた中部国際空港の機能強化（完全 24 時間化）
- ・名古屋港の機能強化、コンテナターミナルの運営効率化や近隣港との連携強化、三河港、衣浦港の機能強化

◆自立する大都市圏に向けた取組と中京都構想の推進

- ・世界と闘える大都市圏として発展する上で必要な施策を自立的に実施していくための国からの権限・財源の移譲
- ・県と名古屋市が一体的に機能強化を図る中京都構想の推進

2

グローバル展開

～世界から活力を取り込める地域に向けて

◆県内企業の海外展開支援

- ・「愛知産業労働センター」に、県内中小企業の海外展開支援のワンストップサービス拠点を設置し、ジェトロ名古屋等と連携した総合的なサポート体制を構築
- ・タイのバンコクに新たに「海外産業情報センター」を開設

◆海外とのパートナーシップの構築

- ・既に友好・協力関係にあるビクトリア州（オーストラリア）、江蘇省（中国）、ベトナム、バンコク都（タイ）、広東省（中国）との交流の推進
- ・成長が期待されるなど特に関係を深めることが望まれるアジアの国・地域を対象とした新たなパートナーシップの構築

◆グローバル人材の育成・獲得

- ・「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」の成果の普及を通じた学校教育における実践的な英語力の強化
- ・アジアの技術系留学生など外国人留学生の獲得、留学生の県内企業への就職支援

3

産業革新・創造 ～日本の成長をリードする最強の産業県に向けて

◆付加価値の高いモノづくりの推進

- ・「知の拠点あいち」での産学行政連携による研究開発の推進
- ・「産業空洞化対策減税基金」を活用した中小企業等の研究開発・実証実験の支援
- ・「あいち産業科学技術総合センター」の「産業デザイントライアルコア」における産業デザインを意識したモノづくりの支援

◆自動車産業の高度化と航空宇宙産業の振興

- ・豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業の推進
- ・水素ステーション・充電インフラ整備の促進等による次世代自動車の普及拡大、自動車安全技術に係る研究開発・実証実験の支援
- ・国際戦略総合特区「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の推進

◆健康長寿産業の育成

- ・大学、医療機関、介護施設、企業等のネットワーク体制の構築による医療・福祉機器分野の育成・振興

◆企業立地環境の整備

- ・「産業空洞化対策減税基金」に基づく立地補助や産業立地促進税制の活用による戦略的企業誘致
- ・市町村や企業のニーズを踏まえた迅速な企業用地開発

◆産業人材の育成

- ・工業教育の中核となる愛知総合工科高等学校新設、「技能五輪全国大会」を契機とした技能尊重気運の醸成
- ・高等学校職業教育技術認定制度の実技試験を重視した見直しなど専門高校教育の充実

4

農林水産業

～競争力ある農林水産業に向けて

◆農林水産業の市場の拡大・経営革新

- ・「6次産業化推進会議」を中心とした農林水産物の加工・販売、農家レストランの開設など、6次産業化の推進
- ・日本一の生産額を誇る花きの需要拡大など「花の王国あいち」の推進
- ・県産農林水産物の生産や利用に係る様々な情報をスマートフォンやパソコン等により発信する仕組みづくり
- ・「農林水産業国際競争力強化センター」を中心とした農林水産物等の輸出の促進

◆生産性の高い農林水産業の展開

- ・農地の利用集積や耕作放棄地の発生抑制など農地の合理的な利用の推進
- ・県農林水産試験研究機関や大学・企業が連携した新技術や新品種の開発の推進
- ・県が開発した新品種について、生産者や加工業者等からなるコンソーシアム設立による早期安定供給のための生産体制の構築支援

◆持続性のある農林水産業の発展

- ・県内8か所に設置した「農起業支援センター」における新規参入希望者への支援
- ・鳥獣被害防止対策の支援

5 文化・スポーツ・魅力発信 ～世界から人を惹きつける魅力ある大都市圏に向けて

◆現代芸術の創造発信拠点としての地位確立

- ・「あいちトリエンナーレ」を継続開催し、国際的に認知される現代芸術イベントとしての地位の確立
- ・愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造機能の一層の強化

◆全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の育成・招致

- ・「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知」や「新城ラリー」、「アイアンマン 70.3 セントレア知多・常滑ジャパン」などのスポーツ大会の育成。トレイルランニングやウルトラマラソンなど新たな大会の立ち上げや招致の具体化検討
- ・スポーツ大会の招致活動や育成活動をワンストップサービスで行う組織「スポーツコミッション」の設置の可能性検討

◆地域魅力の磨き上げ・観光客の誘致

- ・産業観光、武将観光の推進
- ・「名古屋めし」と称される食文化、コスプレといったポップカルチャー等による地域の活性化
- ・2015年の全国都市緑化フェアの開催や愛・地球博記念公園の野外音楽施設の整備など、県営公園を活用した賑わいづくり
- ・「昇龍道プロジェクト」など広域観光の推進

◆東京オリンピック、リニアの開業を見据えたイベントの開催、観光振興

- ・東京オリンピックが開催される2020年をターゲットとした誘客やイベント等の誘致・開催
- ・2027年度のリニア開業を見据えた観光戦略の検討

6 教育・人づくり ～前向きに挑戦し、キャリアアップできる人づくりに向けて

◆前向きに挑戦できる人づくり

- ・少人数学級、少人数教育、外部人材の活用等による確かな学力の育成
- ・道徳教育の充実や、相談体制の充実などによるいじめ問題への対応

◆若者の課題解決能力や社会的自立ができる力の育成

- ・小・中・高等学校を通じたキャリア教育の充実
- ・少子化など社会経済環境の変化を踏まえた県立高等学校改革の計画策定・推進
- ・新たな公立高等学校入試制度の導入

◆円滑な就業・労働移動の実現

- ・「ヤング・ジョブ・あいち」での就労支援や高等技術専門校等での職業能力開発の充実
- ・大学や専門学校等との連携した社会人の学び直しの環境づくりや情報提供

7

女性の活躍

～女性が元気に働き続けられる社会に向けて

◆働く場における女性の定着と女性の活躍の場の拡大

- ・ 女性管理職の養成等の人材育成の強化
- ・ 女性の活躍のメリットや効果等の情報発信、企業等の意識改革促進
- ・ ウィルあいちを交流拠点とする企業で活躍する女性のネットワークづくり
- ・ 女子生徒に対する理系分野への進路選択の支援など、性別にとらわれないキャリア形成支援

◆女性の再就職・起業支援の拡充

- ・ 職場復帰や再就職を希望する女性に向けた新たな相談窓口の設置
- ・ 女性の起業を支援するためのセミナーの開催や女性起業者や経営者のネットワークづくり

◆ワーク・ライフ・バランスの一層の取組強化

- ・ 「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」の登録拡大
- ・ 定時退社や有給休暇取得の促進、男性の育児参加の促進

8

子ども・子育て応援 ～少子化の流れを変える社会に向けて

◆地域における子ども・子育て支援と健やかな育ちの支援

- ・「子育て応援の日（はぐみんデー）」の普及など、社会全体で子ども・子育てを応援する環境づくり
- ・小児科医の育成・確保や、あいち小児保健医療総合センターを中核とした小児救急医療体制の構築

◆多様な保育サービス等の充実

- ・休日保育や延長保育、病児・病後児保育など、保護者の多様な働き方に対応した保育サービスの充実
- ・放課後児童クラブ（学童保育）の整備促進など、放課後児童対策の充実

◆児童虐待・DVの防止

- ・児童虐待の予防や早期発見・早期支援、児童相談センターを中心とした児童虐待事案への対応
- ・保護した児童の家庭的養護（里親・ファミリーホームへの委託や施設の小規模化等）の推進、被虐待児の家族再統合の支援

9

健康長寿

～「人生 90 年時代」を健康に生きられる社会に向けて

◆健康づくりとシニア層の社会参加支援

- ・ 県民の主体的な健康づくりの促進
- ・ あいち健康の森における薬草園の整備と健康プログラム、介護予防プログラムの創出
- ・ 元気なシニア層の社会参加を促進する仕組みづくりの検討

◆地域医療の確保

- ・ 大学と連携した医師育成・派遣体制の強化や再就職支援などによる医師・看護師の確保
- ・ 地域の医療機関の機能分担・連携の推進による救急医療体制の強化
- ・ 介護も含めた多様な職種の連携による在宅医療体制の充実
- ・ がんセンター中央病院を中心としたがん診療連携体制の充実
- ・ 城山病院における精神科救急の機能強化など、精神科医療体制の整備

◆支援が必要となっても安心して暮らせる地域づくり

- ・ 地域包括ケアシステム構築に向けたモデル事業の実施とその成果の全県への普及
- ・ 認知症高齢者への支援の充実、あいち介護予防支援センターを通じた認知症予防や介護予防等に関する人材育成、技術的支援等

10

障害者支援 ～身近な地域で共に暮らせる新しい社会に向けて

◆特別支援教育の充実

- ・ 特別支援学校について規模や配置の適正化を図りバランスよい設置の検討
- ・ 特別支援学校における長時間通学解消のためのスクールバスの増車の検討
- ・ 医療的ケアのための看護師の拡充を図るなど、特別支援学校での幼児児童生徒への支援の充実
- ・ 教員の専門性の向上など、幼稚園・保育所、小中学校、高等学校での特別支援教育の充実

◆障害のある人の地域生活支援と療育支援

- ・ 第二青い鳥学園の改築や民間法人による重症心身障害児者のための施設の整備により、地域における拠点施設を整備
- ・ 心身障害者コロニーの再編整備による全県的な療育・医療体制の構築
- ・ 既存の戸建て住宅や公営住宅を活用した安心できる住まいの場としてのグループホームの整備促進

◆地域における就労支援の充実

- ・ 特別支援学校における職業教育の充実
- ・ 福祉的就労における工賃水準の向上に向けた取組の推進
- ・ 「全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）」を契機とした障害者雇用の気運の醸成

◆障害のある人の活躍の場の拡大

- ・ 優れた障害者の芸術作品を鑑賞できるアート展の開催や、芸術大学と特別支援学校や福祉施設との連携
- ・ 名古屋ウィメンズ車いすマラソンの開催や障害の種別に応じたスポーツ大会の開催

◆社会全体で支える環境の整備

- ・ 福祉施設や医療機関、大学、企業等の連携によるリハビリテーション・介護支援機器の開発促進
- ・ 施設・歩行空間のバリアフリー化、バリアフリー対応型の信号機の整備
- ・ 災害時における市町村内の支援体制の強化、市町村域を越える広域的な支援の仕組みづくり

11

防災・防犯 ～災害や犯罪に負けない、強靱な県土・安全なまちづくりに向けて

◆災害から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくり

- ・住宅、不特定多数の者が利用する大規模建築物、緊急輸送道路沿道建築物等の耐震化の促進
- ・河川改修や地域協働型のハザードマップの作成、海岸保全施設等の整備や土砂災害警戒区域の指定
- ・警察や消防の災害対処能力向上、災害拠点病院やその後方支援にあたる病院の充実、基幹的広域防災拠点の整備など、迅速な復旧・復興に向けた取組の促進

◆安全・円滑に移動できる道路交通環境の実現と交通事故の減少

- ・歩道等の整備や通学路の安全対策など、安全な道路交通環境の整備
- ・ITSなど安全・便利な次世代インフラの実現に向けた先進の安全技術の実証実験の推進・支援
- ・高齢者等に対する交通安全教育などの充実

◆犯罪がなく安心して暮らせる地域社会

- ・防犯意識の高揚、地域の防犯力の向上、子ども・女性・高齢者等の防犯対策
- ・防犯性能に優れた住宅・マンションなど犯罪に強い住まい・まちづくり
- ・県の消費生活相談体制を集約し、機能強化を図る「愛知県消費生活総合センター（仮称）」の設置

12

環境・持続可能まちづくり ~100年持続可能な次世代のまちづくりに向けて

◆持続可能なエネルギー社会の構築

- ・住宅用太陽光発電設備の導入支援や県有地・県有施設を活用した太陽光発電の推進
- ・農業用水を利用した小水力発電の導入促進、下水道等でのバイオマスのエネルギー利用
- ・「豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト」の取組成果などの普及促進
- ・コジェネプラントの導入による工場等と周辺建物との電力・熱融通の促進

◆「環境首都あいち」の実現に向けた取組の推進

- ・県民一人ひとりの環境配慮行動の促進
- ・「持続可能な開発のための教育（E S D）に関するユネスコ世界会議」を契機としたE S Dの取組促進
- ・開発と生物多様性保全の調和を実現する「あいち方式」の普及
- ・三河湾の環境再生に向けた干潟・浅場の造成と様々な主体の連携・協働による事業の展開

◆社会資本の計画的・効率的な維持管理・更新、運用

- ・社会資本の長寿命化やI C Tの活用による計画的で効率的な維持管理・更新
- ・愛知県道路公社が管理する有料道路へのコンセッション方式の導入など、公共施設、社会インフラへの民間活力の導入

V 地域別の取組方向

尾張地域

めざすべき将来像

リニア開業のインパクトを受け止め、世界に開かれた、人・モノ・情報が活発に行き交う大都市地域

地域づくりの方向性と主な政策

①世界とつながる玄関口としての機能強化

名古屋駅のスーパーターミナル化、中部国際空港の機能強化（完全 24 時間化）、名古屋港の機能強化、広域交通基盤の整備 等

②大都市名古屋をはじめ、各都市の魅力を生かした地域の賑わいの創出

名古屋港の賑わいの創出、芸術・文化・スポーツ大会等を生かした魅力づくり、中部臨空都市の商業施設誘致 等

③次世代産業の育成・強化と地域産業の活性化

航空宇宙産業や都市型産業の育成、繊維産業・窯業等地域産業の高度化、企業立地の推進、農林水産業の振興 等

④大都市地域としての利便性を生かした、質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

域内交通基盤の整備、流域下水道の整備、「あいち小児保健医療総合センター」の 3 次救急施設の整備、「心身障害者コロニー」の再編整備 等

⑤災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

基幹的広域防災拠点の整備、社会インフラの耐震化や津波対策の強化、名古屋港の防災機能強化、庄内川水系・日光川水系等の治水対策 等

西三河地域

めざすべき将来像

愛知の成長を牽引する次世代のモノづくりと先進的な環境の取組が調和した活力ある地域

地域づくりの方向性と主な政策

①次世代のモノづくりを牽引する産業の中枢性の維持・強化

「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」の推進、「知の拠点あいち」における研究開発の推進、地域産業の高度化 等

②産業と自然が調和する環境先進地域の形成

「豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト」の普及拡大、「EV・PHV タウン」の推進、バイオマスや小水力発電等の再生可能エネルギーの活用、三河湾の環境再生 等

③産業や歴史、自然等を生かした地域の魅力の創造・発信

自動車産業・地場産業を生かした産業観光や武将観光の推進、農林水産業を生かした地域の活性化 等

④活発な産業活動と質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

交通基盤の整備、衣浦港の機能強化、「油ヶ淵水辺公園」の整備、「第二青い鳥学園」の移転改築、山間地域等の生活基盤の確保 等

⑤災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

社会インフラの耐震化や津波対策の強化、衣浦港の港湾BCPの策定、境川水系や猿渡川水系・矢作川水系等の治水対策、山間地域の防災対策 等

東三河地域

めざすべき将来像

「ほの国」の魅力あふれる多彩な地域資源を生かし、豊かさが実感できる暮らしと多様な産業が展開する地域

地域づくりの方向性と主な政策

①豊かな自然をはじめ、地域資源を生かした東三河の魅力の創造・発信

「ほの国ブランド」の構築、奥三河の交流居住の推進、「花祭」など伝統文化の継承・発信、三河湾の環境再生 等

②地域の特色を生かした多様な産業の育成・強化

次世代自動車・健康長寿・新エネルギー分野等の次世代産業の振興、企業立地の推進、農林水産業の産学行政連携の推進、鳥獣害対策 等

③地域のポテンシャルを引き出し、産業と質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

交通基盤の整備、三河港の機能強化、バイオマスやメガソーラー等の再生可能エネルギーの活用、奥三河の生活基盤の確保 等

④災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

社会インフラの耐震化や津波対策の強化、三河港の港湾BCPの策定、豊川水系等の治水対策、山間地域の防災対策 等

⑤東三河県庁や地域の各主体が一体となって進める地域力と連携力の強化

東三河県庁を軸とした連携の強化、「東三河振興ビジョン」の推進、三遠南信連携の推進 等